

# オブジェクション160

## 自制できない編

自分の感情の中で、自制が難しいのが怒りだろう。でも、そんな感情は当てにならないことが多い。自身のおふがいなさに怒ることもあるけれど、多くは他人のせいにしてしまう。それが自滅に導くことになる。

本編は、次の12項目からなる。

- ① 核兵器を禁止したくない日本政府
- ② IT技術者刺殺事件
- ③ LGBTは生産性がない
- ④ 五輪・パラリンピック・スタッフのただ働き
- ⑤ 車を運転すると理性を失う人
- ⑥ ぶちぎれのセリーナと涙ぐむ大坂ナオミ
- ⑦ 道徳「星野君の二墨打」
- ⑧ 中国の台湾包囲網
- ⑨ ロヒンギヤ迫害の主犯
- ⑩ ロシアからの亡命スパイは消される
- ⑪ 見えないところで手抜きしたレオパレス 21

⑫ かぼちやの馬車・投資と融資の幻想

## 岡森 利幸

① 核兵器を禁止したくない日本政府

以下は、新聞記事の引用・要約。

【毎日新聞朝刊 2016/10/29 一面、クローズアップ、社会  
国連総会委が、核禁止交渉決議した。しかし日本は「核兵器国と非核兵器国の亀裂を深める」という理由で決議に反対した。坪井理事長「日本政府に『ばか者』と言いたい」】

【毎日新聞朝刊 2017/8/22 総合、社会  
今年の国連軍縮会議での高校生演説を見送る。外務省は核兵器禁止条約の見解が異なるためとする。】

【毎日新聞朝刊 2018/2/4 一面  
トランプ政権は、今後5〜10年の核戦略の指針となる「核態勢見直し（NPR）」を公表した。新型の小型核兵器と核巡航ミサイルを導入することを明らかにした。核兵器以外による攻撃に対して核兵

器で反撃する可能性があることを示唆し、使用条件を實質上緩和した。「核なき世界」を掲げたオバマ前政権の方針を転換し、核の役割を拡大する。」

【毎日新聞朝刊 2018/2/4 総合】

米の核態勢見直しに日本政府は歓迎する意向を示した。河野太郎外相「高く評価する」

日本はオバマ政権の核兵器削減を支持したが、巡航ミサイルに搭載する核兵器廃止などは抑止力低下につながる懸念を示した経緯がある。今回のNPRには核巡航ミサイルの導入が盛り込まれ、日本政府が評価する根拠の一つになっている。」

#### ・核の傘

日本は、国際社会において、あたかも核保有国であるかのようなスタンスを取り続けている。核保有を禁止する国連の決議にも、棄権した。被爆国らしくない振る舞いだ。ともかく、アメリカの核戦略に賛同している。

日本政府の政治家たちは、敵国の攻撃、とりわけ核兵器による攻撃を恐れている。「いつ、どこかの国が日本に核搭載のミサイルを撃ちこんでくるかわからない」という不安を抱えているのだが、アメリカの核の

傘の中に入って、ようやく安心を得ている。もしもアメリカに「もう核の傘に入れてやらないぞ」と脅されたら、日本政府は「ご免なさい」というしかないようだ。

でも、そんな核の傘にいて、安心できるものだろうか。そんなアメリカの『核の傘』で、空から降ってくる原爆をよけられるものだろうか。不安をおおるつもりはないけれど……。

「核の傘」にいうとは、具体的に言えば、日本が核攻撃されたとき、アメリカがその攻撃国に核を打ち返してくれるという取り決めがあるということだ。その取り決めは『日米安全保障条約』に書かれているのだろう。アメリカが代行して報復攻撃をしてくれるというものだ。その報復攻撃が強力ならば、うかつには先制攻撃できないことになる。犠牲の大きい攻撃、または勝ち目のない戦いに出るは誰でも二の足を踏む。

平たく言えば、日本は敵対する国に「原爆を落としてみろ！ アメリカさんが持っている核弾頭をテーマの国に何発も打ち込むことになるんだぞ。いいのか？ 一発撃ったら倍返しだ！ アメリカさんのことだから、何倍にして返すかわからんぞ」などと挑発することもできるわけだ。

・報復合戦の果て

報復のための原爆をアメリカが持っていることで、日本は枕を高くして寝ていられると思っている。報復の原爆をもつことは、核の先行使用を抑止する効果があるから、核を持つのだと、核保有を正当化する理由になっている。核兵器を持つことは、抑止力を持つていることだと胸を張っている。

これは「やられたら、やり返す」ことができるならば、やられはしないだろうという理論を基にしている。「仕返しは怖いぞ」という威嚇に頼っている。強力な武器を同盟国が持っているということを頼りにする、トラの威を借るキツネ的な戦術を日本はとっているわけだ。

しかしながら、日本が核攻撃されても、アメリカには放つて置かれる可能性が高い、と私はみる。彼の国は「アメリカ・ファースト」を標榜する大統領の国だから、アジアの極東の島国・日本がどうなっても知ったことではない。アメリカの核の傘に守られているというのには、自民党政権の樂觀的幻想だろう。せいぜい、敵のミサイル発射基地をピンポイントで通常兵器で攻撃するぐらいだろう。

もしもアメリカが、その攻撃国に核を打ち込めば、

その国もまた反撃態勢をとり、アメリカを核攻撃の対象にするだろうから、そうとうに危険な行為になる。核を打ち返しあつたら、日本やアメリカだけでなく、地球全体の存亡の脅威となる。

太平洋の向こうの島国が数発の原爆を打ち込まれる事態になったとき、アメリカ自身を含む全世界を滅ぼすような全面核戦争の引き金となるスタートボタンを、日本の報復のためだけで押すだろうか。その攻撃がまた報復を呼ぶことになる。報復することが正義と考える人たちがばかりだから、もう止まらない。

・大量破壊兵器の取り扱い

大量破壊兵器を持てば、安心というわけでもない。逆に、そんな強力な大量破壊兵器を持つことで、危険性が高まる。他国が持てば、それが脅威になるものだから、さらに国家間の緊張も高まるというものだ。核兵器をちらつかせて、心配性の隣国を脅すことも、外交上有効になっている。

兵器は取り扱いにいくら注意したとしても、暴発したり、味方を撃つたりすることがある。人間は取り扱いをよく間違えるし、機械もよく故障したり誤動作したりする。アメリカでは個人所有の銃砲が、事故で暴発したり自殺に用いられたり悪用されたりしている例

が多いことから、それがわかる。

そもそも地球上に一緒に住んでいる人類が敵味方に分かれて、殺し合いの戦闘を行っていいのか、という根本的な議論がある。核兵器が大量の殺傷を招くことは、日本人が身にしみて一番よく知っていることだろう。敵地・敵国人といえども、撃ち込んでよいわけではない。

世界的な核兵器禁止に賛同しない日本政府の言い分は、「核兵器国と非核兵器国の亀裂を深める」ことなのだが、それを理由とすることに首を傾げてしまう。亀裂を深めるという表現が比喩的であり、わかりにくい、対立するという意味だろう。その対立は、核兵器を廃絶する力になりうるものだ。非核兵器国が核兵器国に圧力をかけることが、平和的に解決するための大きな力となりうる。日本政府はそれをしたくないといっているようなものだ。

日本政府のこれまでの立場を考えると、「アメリカがそれに反対しているから……」という情けない理由にたどり着く。日本政府は、アメリカに完全におもねっているのだ。

今年の2月にアメリカが、核態勢見直し（NPR）を公表したが、これは核をなくすことからほど遠い内

容になっっている。むしろ新たな核兵器の開発と拡充を進めている。それを日本政府は「高く評価する」といっているのだから、とんでもないことだ。広島・長崎の犠牲者は「浮かばれない」ことになる。

アメリカは、自国ではしっかりと核兵器を保持し、新しい開発も行っているのに、他国に対して核兵器の開発や保持を強引に押し止め、経済制裁を課したり、時にはイラクのように大量破壊兵器を持っていることを口実に、大軍を動員して攻め入ったりするのは、横暴すぎるというものだろう。核開発で他国を非難する資格はない。自分だけ銃を持ち、自国だけ核兵器を持つていたいというのでは虫が良すぎる。

持たないけれど、持たないという自制心が必要などころだ。核兵器を持っていない国は、国連のような場で、なおさら、その削減と廃棄で「叫ぶ」必要があるし、「叫ぶ」権利がある。核兵器は、人類が発明した「一番余計な製品」だろう。必要悪だったかもしれないが……。

人類にとって、このような究極的な破壊兵器の発明はすべきではなかったと反省したい。「ダイナマイト止まりなら、よかった」と、ノーベルさんもそう言うだろう。

## ② IT技術者刺殺事件

【毎日新聞夕刊 2018/6/25 社会】

IT講師・岡本顕一郎さん（41）が刺殺された。松本容疑者（42）「ネットのやりとりで恨んでおり、死なせようと思った」と供述。

警察は、2人に直接の面識はなくてもネットでのやり取りを巡って容疑者が一方的に恨みを募らせたとみている。容疑者はネットに「これから近所の交番に自首して俺自身の責任をとってくる」と書き込んでいた。】

【毎日新聞朝刊 2018/6/26 社会】

IT講師刺殺、容疑者、出頭前に書き込みか、「ネット弁慶卒業してきたぞ、俺を『低能先生です』一言でグラグラ笑い、通報&封殺してきたお前らへの返答だ、これから近所の交番に自首し責任を取る」

岡本さんのハンドルネーム「hageX」と松本容疑者と見られる「先生」の接点が確認されていた。

「先生」はネットで他者を「低能」「ゴミカス」などと中傷する「荒らし」を繰り返し、ネット上でこ

う呼ばれるようになった。】

【毎日新聞朝刊 2018/6/27 社会】

IT講師殺害、1カ月前に講演予定を把握、容疑者「ネットで知った」

松本容疑者の父「やさしい子で、なぜこんなことになったのか……。被害者の方に申し訳ない」】

【毎日新聞朝刊 2018/6/27 社会】

IT講師殺害容疑者は、「人を殺せるはずがない」とやゆるする他の利用者を低能などと頻繁に中傷していた。ある利用者「一年中ネット漬けだった先生がネット弁慶脱出するとか、言ったとして男性一人ひとり殺せるとはとても見えないんだけど」「低能先生はネット弁慶の象徴」】

【毎日新聞朝刊 2018/6/29 社会】

IT講師刺殺、松本容疑者はネット上で「低能」「ゴミクズ」などと他のユーザーを中傷する書き込みをして、「低能先生」と呼ばれた人物は自分と認めた。「ネットリンチが許せなかった」という趣旨の供述をしている。福岡県警、岡本さんがHageXで投稿するブログなどではネットリンチに相当するような発言は確認されていない。】

松本秀光容疑者（Aさんと略す）は、ネット上、嫌われる存在だった。「ネット弁慶の低能先生」と、あざけられていた。多数対1のいじめの構図にあるのだが、彼の場合、ネット上で、言いたい放題、罵詈雑言の限りを尽くし、だれでも他人を「低能」呼ばわりするのだから、要注意人物だった。彼は、大多数に迷惑な人物だったから、いじめられても仕方がないところがある。

松本容疑者にとって、いじめ側の最右翼にいたのが、岡本顕一郎さんだったわけだ。数々の「いじわる」をされたことで、松本容疑者が激高したことになる。

Aさんが書き込んだ言葉の例として、以下に示す。

これはAさんが書いたものを、あまりにもひどい言い方は削除するなりして編集したものだという。

——さすが性根の腐った低能ネトウヨだな。感覚が歪みきっている。早く死ねよな

金を払いさえすれば何をしても怒られないと思ってるのか。生きているに値しないな。死ね

自分に甘いゴミクズだな。否定意見と言っても相手のためを思っているか、相手を貶めて自分がニヤニヤしたいだけかなんて大体わかるもんだぞゴミクズ。己の悪趣味さを正当化すんな。わかったら死ね

糞虫がニヤニヤしながら行う「批判」は限りなく誹謗中傷に近いやつだぞ低能。

おいおい迷惑をかけてないって正気かよ。まあナチユラルボンゴミクズは、善意で相手の嫌がることをやるよな。早く死ねよ、迷惑だから——

これは部分的な引用だが、罵倒、中傷、脅し、詰問、侮蔑、不当要求……のオンパレードになっている。暴言の極致であり、これを紙面に掲載するのは私でも躊躇してしまうほどだ。こんな言い方をしてはいけないという典型例だ。さすが、低能先生、すさまじい悪口の連発だ、とほめてやりたい（皮肉をこめて）。

Aさんは、こんな言葉がすらすらと頭に浮かび、すごい速さでキーボードに打ち込んでいたのだろう。他者に対する怒りがわきあがり、ほとぼしる感情にはぜんぜんブレーキが利かない。

その言動はだれの目にも異常に映る人で、犯行後、かなり長期に渡って精神鑑定を受けた。殺人罪などで起訴されたのは10月5日だった。結局、正常の範囲内と鑑定されたことになる。

Aさんは九州大学文学部を卒業した。そこでイスラム文明の研究をしていた。かなり優秀な学生だったという見方もある。研究者あるいは教職の道に進む選択

肢があつたと思うが、卒業後、福岡県内のラーメン店で働いた。3年前に辞めてから、職につかなかつた。ネットのブロガーとして論戦を繰り返していたわけだ。論戦を吹っかけては、相手を罵倒しまくつた。多くの人がその標的になり、餌食にされた。

そんな論戦は真剣勝負に似ている。果し合いだ。相手と議論を戦わせ、言い負かすことに全力をあげる。相手の屁理屈を論破すれば、勝ちだ。

確かに、Aさんは思考能力に優れていたのかもしれない。相手にやり込められて、ひれ伏すようなことはなかつたのだろう。相手の小さなミスやあいまいさを見逃さず、攻撃する。その卓越した罵詈雑言を武器にして向かうところ敵なし、だったと思われる。相手は、イヤになつて論戦を止めてしまっただけかもしれない。「低能先生には反論するだけ無駄。彼の傲慢な言い分に自分が腹を立てるだけ」と悟つて、打ち切る。

Aさんは、その論戦にはまったことになる。興奮してくる。自分の頭脳がフル回転することに快感を覚えたのだらう。Aさんの得意とするところは、もちろん罵詈雑言だ。彼にとつて他人を罵倒することが一番楽しい。相手を見下し、おとしめると、自尊心が高まる。

「低能どもは、早く死ぬ」と言い渡す。勝ち誇ること

が最高の快感なのだ（自分では勝つたつもりなのだろう）。寝食を忘れるほど、その趣味にのめりこむ。〈ラーメンなんか作ってられるか！ オレは低能どもの刀を1000本刈り取つてみせる！〉などと思つたに違いない。

Aさんの悪趣味に待つたをかけたのが、IT講師・岡本顕一郎さんだ。有名ブロガーでもあり、Haga XというIDネームを持つ。ブログの管理運営元に告発し、罵詈雑言を撒き散らすAさんのIDを強制的に無効にする手段をとつた。Aさんは新たなIDを登録するが、それも次々に無効にされた。

そんな徹底的な手段に、Aさんは本気で逆上した。「オノレ、またジャマしたな。オレが地団駄踏むのをへらへら笑つているのだらう。このオレをコケにしよつて。キサマはナニさまだ？」

Haga Xが岡本顕一郎さんであることを突き止め（一般の人には難しいこと）、その講演が予定された会場のそばで待ち伏せした。逆恨みと言つていい感情を爆発させて、岡本顕一郎さんを刺し殺した。

〈オレは殺すと言つたはずだ。こいつは「殺せるもんか、オタクはネット弁慶だろ、ハハハ」と挑発しおつて……〉

③ LGBTは生産性がない

【毎日新聞朝刊 2018/7/24 社会・ネットウオッチ

杉田議員寄稿「LGBTは生産性がない」に批判が集まっている。「優性思想だ、単なるヘイトだ」との批判が起きた。杉田水脈議員が月刊誌「新潮45」8月号の寄稿したものを。】

【毎日新聞朝刊 2018/7/28 社会

杉田議員寄稿で、LGBT当事者や支援者からが自民に抗議した。「差別的、ヘイトスピーチだ」毎日新聞朝刊 2018/7/29 日曜くらぶ・松尾貴史  
生産性、この短絡で低劣な基準、人の尊厳認めぬ暴言だ。】

【毎日新聞朝刊 2018/7/31 総合

LGBT寄稿で、野党が杉田氏の批判を強める。「辞任すべきだ」】

【毎日新聞朝刊 2018/8/2 総合

杉田議員寄稿のLGBT議論がテーマになり、党内からも異論が出ている。】

【毎日新聞夕刊 2018/8/7 特集ワイド

LGBTに対する差別的言動で批判拡大を受け、自

民党は1日付で「本人には今後、十分に注意するよう指導した」しかし謝罪はない。人権無視に「N〇！」の声広がる】

【毎日新聞朝刊 2018/8/8 総合・社会

LGBT寄稿問題で、自民杉田氏に障害者らが抗議した。】

【毎日新聞夕刊 2018/8/9 体温計

LGBTの社員への差別を防ぐため、社内研修を徹底する大手企業も増えている。】

【毎日新聞朝刊 2018/8/15 社会

自民党谷川とむ衆院議員（同性愛は）趣味みたいなもの」などと発言したことで、日本文学研究者のロバート・キャンベルさん（60）が（自分は）同性愛者だと明らかにした上で「政治家がこういうことを言うことに幻滅し、危惧を感じる」と批判。杉田水脈氏に対しても「性的指向を『嗜好』と混同させるように書いている。努力で変えられると思っっているようだが『直せばいい』という論理は多くの人の苦しみを助長する」と反発。】

【毎日新聞朝刊 2018/9/14 総合・社会

新潮45が10月号で、「そんなにおかしいか『杉田水脈論文』と題した特集を組んだ。



8月号で「LGBTカップルのために税金を使うことに賛同が得られるか。彼ら彼女らは子どもを作らない、つまり生産性がない」などと主張した。杉田氏の事務所「(杉田氏への)殺害予告があった」【毎日新聞朝刊 2018/9/26 一面、社会】

新潮社が「新潮45」の休刊を発表した。新潮45の8月号は性的少数者差別で批判を受けたのに、10月号で本文を擁護する特集を組んだ。さらに批判拡大を招く事態になっていた。休刊の理由を、伊藤幸人取締役は「部数が減って焦りがある中で無理が重なった。編集体制を整えられなかったことに、経営責任があると思っている」と話した。新潮社は9月21日、佐藤隆信社長名で「常識を逸脱した偏見と認識不足に満ちた表現」があったことを認めた。】

・叱られる杉田氏

今年の7月、新潮45・8月号に杉田水脈が性的少数者(LGBTの人など)についての見解を寄稿したら、各方面から集中砲火さながらの、すさまじい批判や非難の嵐が吹きまわった。今も(2018年10月)その嵐は収まらないほどだ。

彼女が寄稿した要点は、LGBTを冷遇しておけばいいという主張とも受け取れる。

「生産性がない」という文節は、反発を招くに決まっている。「生産性がないから、LGBTを優遇する必要はない」という文脈だから、生産性がない人たちが全般を傷つけることになる。生産性がないと、社会から認められない、ということになる。

LGBTだけでなく、不妊に悩む夫婦・未婚の女性たち・障害者たちの心にもグサリと突き刺す言葉になっている。中傷された気分だろう。

からかわれてもいる。LGBTの場合は、生殖機能を手術などで取らない限り、身体的にはその機能は備えているものだ。そんな人たちに、杉田水脈議員は、「悔しかったら、生んでみる」と挑発している意味合いがある。

ただし、LGBTに「生産性がない」とするのは、当然のことで、わざわざ言わなくてもいいことだろう。LGBTが一般の男女の生殖行為をしないことはわかっているから、余計な一言になっている。

それが政治家にとってほぼ致命的な失言になったのだから、恐ろしい。全方面から抗議や批判を浴びることになった。

## ・新潮45編集部の失敗

新潮45の編集部は、このところセンセーショナルな寄稿を掲載する傾向が出てきたといわれている。たとえば右派の主張を特集すると、部数が伸びた、ということがあり、購読部数が下がっている苦境の打破のために、曲<sup>くま</sup>だまを投げるようになってきたようだ。今年になってその傾向が強くなったとも言われる。部数を伸ばすために、無理筋の寄稿を載せていたわけだ。

新潮45・8月号は、悪い意味で注目され、議論が沸き起こり、おそらく部数が伸びただろう。それに味をしめたかのように、新潮45の編集部は、その10月号に「杉田議員のLGBT批判はそんなに悪いか」という反論特集を組んだ。批判に対して開き直りののかのように、杉田氏を擁護する論のいくつかを載せた。でも、それらは説得力がなかった。寄稿者たちは杉田水脈氏を擁護する立場にいうだけで、アウトダるう。

すぐにこの10月号も批判的となった。編集部の姿勢が問われた。そんな投稿を載せることで発行部数を伸ばそうとする姑息さに、出版人の良心が問われる事態になった。新潮社内でも、新潮社に近い執筆者も、新潮45の編集を批判したのだから、どうしようも

ない。そんな特集を組んだ編集部の責任問題に発展し、新潮社の社長判断で、休刊を決めたわけだ。新潮社の幹部も自社の編集部を擁護するわけには行かなかった。「新潮45の編集部は良識を欠いていた。部数を伸ばすために、おかしくなった」という結論だろう。世論に追い込まれた形になった。休刊は事実上の廃刊になったが、惜しむ声は出ていない。

## ・過熱する批判

「新潮45」10月号以外、杉田氏を擁護したり弁護したりする意見など、メディアからぜんぜん出てこないことに、私は異常さを感じたほどだ。すべて一方的に批判していることに、私などは逆に反発を感じてしまう。これでは、自由な少数意見さえも抑え込まれてしまうという危機感を抱く。人と違った意見を言う、やりだまに上げられてしまうということだ。

彼女の意見は「少数意見」とされているものだろう。少数派になっているから、LGBTを批判するような意見を言うことは、かなり無理ということになる。「少数意見を主張するような政治家は辞める」というのは、それこそ差別だろう。杉田氏は魔女扱いされている。魔女には言論の自由がないのだから。

特に彼女が政治家であることで、批判する声が高い。

人々は国会議員にモラルや良識を強く求めているのだろう。国民の模範となれ、ということかも知れない。模範的な人ばかりではないだろう。

でも、少数意見を主張することは、逆に政治家として必要なことだろう。世の中の大多数はLGBTを容認する側に傾いている。LGBTが大手を振って歩ける社会になりつつある。カミングアウトも珍しくない。少数派といわれているLGBTを擁護することが、今日では大多数になっているからおもしろい。

人々の多くは、自分が何らかのいわれによって差別されることへの恐れを抱いているからだ、と私は考える。いつ自分が差別されるかわからないという不安を抱えている。今回はLGBTの問題だとしても、他人事ひとごとではないのだ。

・LGBTは優遇されているか

杉田氏の主張は、LGBTは税法上で優遇されているところがあると指摘したことだ。「特別扱いしないで、同じ税負担にしよう、公正にしよう」と言っているようにも聞こえる。

しかし、具体的に優遇されているところがあるかという点、否になるだろう。逆なのだ。家族・親族であることになされる税金の低減が、LGBTにはまった

く適用されていないと言っている。配偶者として認められないことは、所得税の控除も適用されない。遺産相続など、配偶者並みの配分がないし、そもそも相続対象にならない。法定相続人でないから、指定がない限り、保険会社から死亡保険を受け取れないという現実もある。優遇どころか、冷遇されていることばかりだろう。今日では、行政面などでそれが配慮されるようになりつつあるが、杉田氏はそんな配慮が気に入らないのだろう。

LGBTの傾向のある子どもは、ガキどものからかいやいじめの対象になりうる。ガキどもはLGBTを敏感に判別し、見下す。LGBT社会進出においても、不利だった。つまり職に就くことが難しかった。面接官による第一印象で引つかかるかもしれない。それはリクルート・スーツでごまかせるかもしれないが、職場で同僚から変な目で見られたりする。会社としては、それでは和を乱し、仕事の遂行に差し障るから、多くのところで社員に、LGBTを同等の目で見えるように指導や教育を始めている。企業にとって社員が有能であれば、男女は問わないことになっているし、差をつけてはいけないことになっている。それを優遇しているとみるとすれば、まちがいだ。

・生産性がない

杉田氏に「生産性がないから……」と批判されて、一番怒りまくっているのがLGBTの人たちだ。批判というのは耳が痛いものだ。批判されたくないから、反発するところがある。

差別だ、偏見だ、ヘイトだ、低劣基準だ、などと言っている。差別や人権問題に話を広げているのは、杉田氏の本論から逸脱し、揚げ足を取るようなこともみえる。そんなに怒らなくてもいいのでは、と私は思ったりする。

確かにLGBTと、LGBTでない者との区分があり、違いがある。しかし、生産性のあるなしでそれを区分しているのではない。短絡で低劣な基準という批判には当たらない。基準というより属性だろう。LGBTが持っている属性の一つに「生産性なし」がある。杉田氏はLGBTに「生産性なし」という属性をつけただけのことだ。それは単純なことであり、「男女の生殖行為をしないので、子どもを生まないし、その子どもを育てないこと」を指している。

・LGBT亡国論？

杉田水脈氏の主張は、いわばLGBT亡国論だろう。LGBTが国を滅ぼすことを憂いている。日本でもL

GBTがはびこる世の中になってしまうと、どうなるかという心配があるだろう。国を憂いするのは政治家の本領だろう。女性たちの出生率の低下もあって、少子化傾向がある日本だ。人口が減少している。今回、彼女の老婆心からLGBTを批判したものでしょう、と私は推測している。LGBTの人たちは「そんなこと、政治家に言われたくない」と聞く耳を持たないのだろうけど。

LGBT亡国論の理由をあげれば、やはりLGBTに「生産性がない」ことだ。でも、LGBTは少数派であり、絶滅危惧種でもある。自分たちが子供を作らないのなら、子孫が絶えてしまう。LGBTが少子化の一因になりうるが、少数派だから、それを心配する必要はないのだろう。少子化の大きな要因は別にある。彼らが「くやしかったら、子どもを生んでみろ！」と言われて奮起し、たとえ生産性を上げたとしても、日本の人口減少が解決するわけでもないだろうけれど。

・生産性はある

今日では社会が子供を育てるところがある。政府は、財政が苦しい中でも、税金から児童手当を出したり、教育関係の無償化を押し進めている。行政は給食を出したり、登下校の安全に気を配ったりしている。

一般的な社会人は、すくなくならず税金を払っているから、子供の養育に、いやがおうにも参加・協力していることになる。つまり、LGBTも間接的には生産性を持っている。社会的生活をしていけば、「生産性がない」と言い切れないところがある。国民総生産というぐらいだ。

・批判を受けながら

だれでも、他人に批判されたくない、世間から白い目で見られたくない、疎外されたくない気持ちを持っている。でも、LGBTとして生きていきたいならば、「あの人は絶滅危惧種ね」という目で見られるという覚悟が必要だろう。

従来LGBTが異端視されてきたのは、公序良俗や秩序に反することだったからという理由がある。でも今では、そんなことよりも人権が勝り、人間に多少の違いがあっても、個性の範囲にあるとし、容認する傾向にある。

ただし、今でもLGBTをよく思わない人たちはいるだろう。LGBTをこどもに持つ両親は、特によく思わないだろう。もしも両親にそれを告白したら、そうとうがっかりされてしまうにちがいない。彼らの多くは孫の顔が見たいのだ。そして「しかたがない。そ

れが自分の生き方なんだろう」というあきらめの気持ちを持つのもかもしれない。たとえば、「性同一性障害などという病気だ」という解釈で納得してしまう。自分子どもがLGBTであることで他人にいじめられないようにと願うばかりだろう。

④ 五輪・パラリンピック・スタッフのただ働き

【毎日新聞朝刊 2018/2/3 スポーツ

ピョンチャング 平昌冬季五輪、ボランティア2000人離脱。勤務環境の悪さを訴える声が上がっていた。】

【毎日新聞朝刊 2018/6/12 社会

東京五輪ボランティア（8万人）の募集について 交通費を一定額至急することなどを承認した。

東京都も同日、観光案内を勤める都市ボランティア（3万人）に対し、交通費を支給すると発表した。組織委と東京都は交通費の自己負担を前提としてきたが、批判意見が多く、会場までの一定額を支給すると変更した。】

【毎日新聞夕刊 2018/8/18 一面

アジア大会2018ジャカルタ、ボランティアは破格の待遇を受ける。組織委ボランティア担当者「当

然の報酬。予算も確保している」  
【毎日新聞朝刊 2018/8/19 アクセス

スポーツ庁と文部科学省が全国の大学と高等専門学校に対し、大会期間中（7月24日～9月6日）に授業をしないよう暗に求める通知を出した。学業よりボランティア優先か。一部の大学ではボランティアに単位を与える動きがある。

仮にボランティア8万人全員が10日間ずつ参加し、各自に日当1万円を支給するとしたら費用は80億円。組織委が発表した大会経費（1兆3500億円）の1%にも満たない。】

【毎日新聞朝刊 2018/9/19 総合・社会  
五輪ボランティア、1日当り交通費10000円支給。  
活動中の食事は別途提供される。】

【毎日新聞朝刊 2018/9/27 総合・社会  
東京五輪・パラ、ボランティア募集を開始した。1  
1万人確保へ必死のPR、「一生の宝」になる。】

【毎日新聞朝刊 2018/10/6 社会  
東京五輪ボランティア、募集開始から10日間で、  
大会ボランティア（募集8万人）は3万人が応募。  
東京都も市ボランティア（3万人）のうち一般から  
3426人が応募したと発表した。なお、3万人

のうち1万人は既成の組織から選ぶ。】

・東京五輪ボランティアの冷遇

ボランティアは、ネーミングはいいが、基本的に「ただ働きする人」だ。組織委員会（組織委と略す）は、若い人をただで働かせるために、ボランティアなどという体のいい言葉を用いているのだろう。私は、五輪・パラリンピックの彼らをスタッフと呼びたい。

組織委は、ボランティアだからという理由で、日当など出さないといいつもだろう。しかし、かれらスタッフが行おうとしているのは、仕事であり労働だろう。もしも仕事でないなら、何だろう。遊びか、趣味だろうか。それとも研修？

子どもの遊びではない。18歳以上の大人が行うことだ。仕事としてしっかりやってもらうために、相応の報酬を出すべきだと考える。10000円以内の交通費だけでは、あまりにも少ない。はした金であり、歩いて現地にいけるような人以外、多くの場合、足が出てしまう。これはアルバイトの時給に相当する金額だ。一日8時間拘束されるとなると、ぜんぜん割が合わない。しかも、お金としてもらえるのではなく、プリペイド・カードで渡されるという。どうしても金を出した

くないという組織委のしみつたれぶりが表れている。

競技施設や交通網の整備などに莫大な建設費をかけているのに、大会スタッフを無給のボランティアで補助おうとする発想がおかしい。それなら、動員する側の組織委の職員や役員たちが、率先して無給で働いてもらいたい。彼らは働く人の平均以上の給料をもらっている人たちではないか。

当初、組織委は交通費を一円も出そうとしなかった。ボランティアに対して食事しか出さないような「ブラック・ボランティア」の呼び声が高い。スタッフたちは、何をするかについて、おおまかな選択ができることになっているが、実際に配置され、行うことは上からの指示によるものだろう。拘束される気分だろう。

五輪・パラリンピックのボランティアで11万人が（多くは若者たち）、組織に組み込まれて、搾取されるといってもいいだろう。そんな経験が「一生の宝」となるだろうか。そんなことを言って、若者たちを騙してはいけない。

10月時点、募集開始から10日間で、応募者は順調に増えているそうだが、あとで、平昌冬季五輪のときのように、キャンセルする人が続出しなことを祈りたい。

#### ・ボランティアの責任

ボランティアでは、仕事をする上での責任が弱いという問題がある。たとえば、一日だけ「持ち場」に顔を出したら、もう飽きてしまい、次の日は来ないことがあっても、組織委は文句を言えない。ちゃんと来てくれる確約はない。確約を取るための方策として、募集時に「10日以上参加できる人であること」などという条件をつけるしかないわけだ。

やはり、応募条件には、次のことが含まれている。

「全ての研修に参加」

「1日8時間程度、10日間以上の活動が基本」

もしも、開催期間中に2、3日休む者がいれば、「テメー、応募条件を忘れたのか」と、どやしつけるための口実になる。

そして研修のときに、指導員が「いいか、持ち場を勝手に離れたり、当日休んだりしたら、仲間のみんなに迷惑がかかるんだぞ」などと言いかけておく。

仲間といっても、ただ集まっているだけの関係だ。

寄せ集めだから、お互いに何の義理も借りもない人たちだ。ボランティアは自由意志の持ち主であり、限りなく気まぐれなのだ。好き勝手に参加しているだけの

ことだ。組織の一員として自覚させるには、各人の思い込みにそうとう頼らなければならぬ。

「10日以上参加する」というのは約束のようなものだが、それは口約束くちやくそくレベルのことであり、拘束力は無い。まっとうな責任を持たせたいなら、契約レベルで「10日以上参加」を求めるべきだ。賃金の支払いに伴う「労働契約」がそれを確かなものにする。

災害復旧のためなら、人助けの意味があり、ボランティアにはそれなりの存在意味がある。

学童の登下校の見守りには、交通安全などのために意味がある。

地域のお祭りでも、自分が楽しむところがあるから、ボランティア活動に意味がある。

しかし、五輪・パラリンピックでは、どうか？ やりがいがあるだろうか？

「疑うなら、テメーがやってみろよ！」と言われそうだが……

#### ・儲かるイベント

五輪・パラリンピックは、4年に一度、国や企業からの支援を受け、鬼コーチのもとで、地獄のような練習場で必死になってトレーニングした選手たちが一堂に集まり、その成果を見せるための晴れの舞台である

から、おもしろい。国別対抗の競技大会であることに特別の意味がある。観客は時刻の選手が活躍すれば、自分のことのように喜べるから、民族意識、集団意識が刺激される。スポーツよりも、国の名誉や誇りの方が重点になっている。国威発揚のような目的で、過去には利用された。それを「スポーツの祭典」などというのは、おこがましいところがある。お祭り気分で顧客の意識を高揚させ、元気にするとか、スポーツで健康を増進させるとか、国際親善のためなどは、二の次になっている。開催するための、こじつけの言い訳

になっている。大きな大会になればなるほどコストがかかるが、収入も大きい。儲かるイベントになっている。国際的なスポーツ競技大会は、主催者・運営施設・放送局・広告スポンサー企業などが商業的に儲けるために行うようになっていく。オリンピックも「興行」的な性格を強めている。民間企業の関わりが大きくなっている。大手の飲料メーカー、スポーツ用品の販売企業がスポンサー契約し、名前を広告できることになっているし、放送局と契約し、高額な放送権料を、組織委やIOC（国際オリンピック委員会）などが、収入を分け合うこと（山分けする）になっている。もちろん、観客の



入場料収入もかなりのものになる。

組織委は国から企業から潤沢な金を集め、開催し、高い入場料のチケットを販売し、放映権収入を世界中の放送局から何千億円のお金と得る目論見なのだ。そのためのスタッフは、ボランティアの11万人がただ同然で働いてくれるのだから、こんなにうれしいことはない。つまり、主催者側の金儲けの手助けをするために、11万人がただ働きする。

・ボランティアの気持ち

開催することで、巨万の金が儲かるなら、なおさら公平な配分が必要になる。(オレたちが暑い中で汗水たらして働いたのに、テメーたちはらくらく儲かって、ほくそえんでいるんだろ……)という不満が渦巻くに決まっている。

商業主義的なイベントの片棒を担ぐ。しかし、その利益として得られるのが、「気持ち」だけなら、情けない。

「オレたちがオリンピックを影ながら、支えたんだ」という自負、「自分が手助けしたオリンピックが盛り上がるってうれしい」という達成感のような自己満足があるかもしれない。あるいは「オレは金のためにやったんじゃないぞ」という「強がり」だろう。

競技種目が増えたり、参加選手が増えたりし、大規模になっていくから、開催する国や都市の負担も増えている。資金が不足するから、「スタッフはボランティアでやってくれ」という面があるかもしれない。しかし、スタッフに支払う給料など、高が知れている。五輪経費は、検査院が10月に入って改めて試算したところ3兆円になるというから、スタッフ全員に一般賃金なみの支払いをしたとしても、その1%に満たない金額だろう。

文部科学省は、ボランティア活動した学生に学校が単位を与えることを奨励している。単位ほしさにボランティアをしたんでは、「違うだろう」と言いたいところだが、「はした金より単位」を得たいと考える現実的な学生たちを多く動員するためには、一番効果的なようだ。

学生の多くは、必要な単位を取って卒業というコースを歩みたいのだ。単位を学生の鼻先にぶら下げて、ボランティアを推奨するのは、運営委や五輪を後押しする政府としては、かなりずるいやり方と私は言いたい。単位を取得したことが「一生の宝」になることに、否定はできないけれど……。道案内程度の体験で単位をとる学生もそうとうにずるい。

「学生さんはいいよな、単位がもらえるんだから。オレたちによ、気持ちだけかよ。オレたちや、そんなにひまでもなかったんだ」というぼやきの声が聞こえたりして。

⑤ 車を運転すると理性を失う人

【毎日新聞朝刊 2018/7/5 社会】

あおり運転でバイクの男性を死亡させたとして、殺人適用、40歳容疑者を再逮捕。堺市で7月2日午後7時半ごろ高田拓海さん（22）のバイクに追い抜かれたことに腹を立てて車を故意に追突させて殺害したとしている。】

【毎日新聞朝刊 2018/8/8 総合・社会】

損保調査で、半数があおり運転を「受けた」と答えた。北海道・東北に多い。】

【毎日新聞朝刊 2018/9/30 総合・経済】

ドライブレコーダーの出荷が急増している。あおり運転事故が契機になっている。】

人は何かに熱中することがある。だんだん興奮してくると、われを忘れることになる。車の運転には、事

故の恐れが常に付いて回り、人間が全力疾走してもとうてい追いつけないほどのスピード感があり、他車とのすれ違いがあり、信号によっていやがおうにも停車させなければならぬし、横断歩道の歩行者が急に現れてくることがありひやりとさせられるから、たいてい緊張させられる。一種のストレスがかかるのだ。何かのきっかけで興奮し、激怒することは十分にありえる。激高したならば、もう誰に求められなくなる。暴走するのだ。まさに暴走するのが、あおり運転だ。

7月2日の堺市での事件では、追突覚悟で相手の前で急ブレーキを踏んでいる。相手がバイクだから、4輪車のように急には止まらない。たとえ追突しなくても、転倒することは必至（必死）だ。警察が殺人適用したのは妥当だろう。

一人で暴走するのはともかく、あおり運転は他者（他車）を巻き込むから、迷惑であり、かつ危険な行為だ。

・ 前をのろのろ走る車があり、イラついた（オラオラ、のんびり走ってるじゃねえ、じゃまだ、どけ！）  
オレの到着が遅れるじゃねえか）

・ ひやりとさせられた  
・ なまいきなやつに追い越された  
・ 他人の違反行為にムカついた（オレが右折しよう

と待っているのに、アヤツは信号が赤になっても直進してきた)

・何でもないのに、クラクションを鳴らされたなどのきっかけ(多くは些細なこと)で、激怒して自分の車で相手の車の走行を妨害する、幅寄せして嫌がらせをする、後ろにびったりと付ける。アクセルを吹かし、前の車を追い越し、かぶせてから急ブレーキを踏む。相手の運転者もあわてて、ほとんど真つ青になつてブレーキを踏む。追突事故では、うしろの車が悪いことになってしまう。

車を止まらせてから、自分の車から降りて、つかつかとうしろの車に近づく。そして、運転者に怒鳴りつける。対応しないと見るや、車を蹴飛ばす、窓を叩く。「オラオラ! テメー、へたな運転しやがって、迷惑だろ!」(迷惑なのは、あなたです)

そんな性格の人は車の運転に向いていない。

⑥ ぶちぎれのセリーナと涙ぐむ大坂ナオミ

【毎日新聞夕刊 2018/9/10 スポーツ、社会

セリーナがいらだつ。暴言など規則違反3度。

1万7000ドルの罰金を科した。一つ目はコーチ

がスタンドから指導したとして主審が警告した。】

【毎日新聞朝刊 2018/9/11 一面、スポーツ・社会

大坂が全米Vを達成。試合後、セリーナ・ウィリアムズと抱き合い涙があふれた。「コートに入ったらセリーナのファンではない」「私のアイドル」「小学生の頃、リポートにセリーナ選手みないになりたいつて書いた」と会見で答えた。

入場するとき、4大会通算23勝のセリーナは、大きな歓声で迎えられ、出産後の初の全米制覇を期待された。試合では、大坂の強打で追い込まれ、力んでミスを重ねた。サーブが入らないため、いらだちが募った。3度も警告を受け、結局ペナルティーを科せられた。審判に不満、怒っていた。暴言を浴びせた。】

【毎日新聞朝刊 2018/9/14 スポーツ

テニスの全米オープン、8日の決勝で、セリーナ・ウィリアムズが主審の判定を「女性差別」と批判した問題で、審判団が(セリーナに同調する意見があることに)不満を示した。

主審に対し「泥棒」などの暴言があつたセリーナ・ウィリアムズは男子が同様な違反行為をしても罰は受けないと主張した。

マルチナ・ナブラチロアさんは「男子が罰を逃られるのなら、女子も逃れられるべきだとは、いい考えとは思わない」と、セリーナ・ウィリアムズを批判した。」

【毎日新聞朝刊 2018/9/19 オピニオン記者の目「長野

宏美」

テニス全米オープン決勝、セリーナ・ウィリアムズ（36）と主審の衝突で、後味悪い幕切れになった。主審は規則に忠実すぎた。

スタンドのコーチがネットに出るように合図を送ったとする「コーチング」で最初の警告をとられた。その後、大坂なおみ（20）の鋭いボールを打ち返せず、ネットにかけてしまいゲームを失ったとき、ラケットを叩きつけて破壊した。2度目の反則行為として1ポイントを失った。3・4と逆転されたウィリアムズが、主審を「泥棒」とののしった。これを暴言と判断し、3回目の違反で1ゲームの罰とした。これを不公平だと感じた彼女は、試合が中断するほど逆上した。

表彰式でのブーイングは大坂に向けられたものではない。主審がウィリアムズを不公平に扱い、熱戦に水を差したという不満だろう。性差別というより、

規則に忠実すぎた結果だろう。」

9月のテニス全米オープンに大坂なおみが優勝したことは快挙であるが、セリーナの反則で、大坂なおみはスコアの点が加算されたから、大坂なおみが実力でセリーナに勝ったとは、やや言いにくいところがある。つまり、セリーナの反則負けという一面があるからだ。

テニス全米オープン決勝で、試合中セリーナはぶちぎれた。試合後の表彰式での二人の顔が印象的だった。不満がくすぶり、負けたのは審判のせいだと言わんばかりにふてくさって表情の硬いセリーナと、観客のブーイングが自分に向けられたと思っただけか、涙ぐむなおみ。

観客のブーイングは、期待はずれの試合内容だったという意味なんだろう。男勝りの力強いサーブで、これまで幾多の試合を制してきたセリーナだ。出産後も復帰して全米オープン決勝にまで進出したのは、自国人のサクセス・ストーリーとしてアメリカ人が好むところだろう。相手はちよっと出のジャップだ、負けるわけがなかった。それが、ペナルティーを科されたりしてぶざまに負かされたから、ブーイングをしたくな

った、と考えられる。

ぶちぎれつぷりを振り返ると、コーチがスタンドから指導したとして主審が警告したとき、「私はコーチの声など聞いていない、聞いていないわよ！」とわめきちらした。しかし、そのコーチは声を出したことを認めた。

その後、いらだちがつつたセリーナは、ラケットをコートに叩きつけた。(もう、そばには近寄れない)主審はそれを反則行為とした。すると、往年の強豪テニス選手・マッケンロー顔負けの悪態をつきまくった。主審を「泥棒」呼ばわりした。主審に食って掛かり、同じ文句を主張し続け、試合を中断させた。これももしプロ野球などでは、退場処分だろう。サッカーではレッドカードだ。主審が忍耐強かったのかもしれない。確かに、記事に長野宏美さんが指摘しているように、今回の主審は厳しかったようだ。ラケットをコートに叩きつける行為は、血気盛んなプロ選手にはよくあることで、それが反則とは、私も今回知った。見苦しい行為だから、気にはなっていた。あの錦織圭でさえ、ちようど4年前の2014年9月の全米オープンでゲームを失ったときにラケットを地面に叩きつける場面があった。それを反則と取るかどうかは、主審の裁量

のようだ。思いっきり叩きつけるようでは、反則になるのだろう。(ラケットを壊さなければ、セーフかもしれない)

小学三年のとき、大坂なおみは、作文に「セリーナ・ウィリアムズをあこがれの選手だ」と書くほど尊敬していたそうだが、ブチぎれたセリーナの醜態を見て、それでも「憧れの選手だ」と言うのだろうか。

スポーツの試合後では勝者は敗者をいたわるのが礼儀だから、インタビュアーでは、大坂なおみは本音を言えなかった、と私はみる。涙のわけを「小さいときから憧れの選手と試合ができて感動しました」となおみは言っていたが、「あんな姿を見て幻滅を感じました」などとは口が裂けても言えないことだろう。失望して泣きたくなった、と私はみる。「ちいさいころから憧れていたセリーナが、こんな人だったとは……」と、悲しくなったのだろう。

セリーナの一番言いたかった主張は「女性差別があった」ことだ。「審判は男子に甘く、女子に厳しい」ことで抗議した。しかし、たとえそうだとしても、大坂なおみも女子選手だから、同じ土俵にいるわけで、不公正とはいえない。「女子にも甘くしろ」と要求す

るのは、通るはずがない。往年の名テニス選手マルチナ・ナブラチロアさんも、かなり遠回しな言い方をしているが、そう言っているのだろう。

「審判は男子に甘く、女子に厳しい」という主張も、仮説でしかない。今は、どちらともいえないところだろう。ただし、The New York Times 2018/9/17 Sports p15 には、"Women fined more often? No"と題する記事があり、記録上の数値ではむしろ男子の方に厳しくペナルティーを取っていると述べている。

審判判断の偏りというより、男子の方が態度が荒っぽい、あるいは反抗的などところがあるのだろう。荒っぽくテニスをしたほうが勝ちにつながるのかもしれない（少々皮肉をこめて）。

### ⑦ 道徳「星野君の二塁打」

【毎日新聞夕刊 2018/7/10 あした天気になあれ・小国綾子

小学6年の道徳の教科書に載っている「星野君の二塁打」が議論を呼んでいる。野球チームで監督から犠打を命じられた星野君、それに背いて二塁打を放つ。その結果、チームは勝利するが、星野君は監督

から「チームの約束を破り、和を乱した」ことを理由に、次の大会で出場停止を言い渡されてしまう。でも、星野君のしたことは本当に悪いこと？

米国チームの監督がうちの息子にバントばかり指示する理由を聞きに行ったとき、日本では監督の指示に黙々と従うのが美德なんです、と説明したら、米国チームの監督は、「えーっ、バントサインにノーと言わなかったじゃないか。この国では、打ちたいときに打ちたいといわなきゃ何も伝わらないよ」ちなみに1947年に発表された原作では、星野君が監督に「打たせてください」と懇願する場面が出てくる。

（そのあと、著者は専門家の見解のいくつかを紹介している。以下は私の要約）

- ・ 野球のルールを破ったわけではない。
- ・ 子供の打ちたい気持ちを大事に伸ばすのも指導者の役目だ。

・ 出場禁止はいきすぎで、パワハラだ。】

今どきの「道徳の教科書」は、具体的な説話風のストーリーを多く載せ、それぞれの場合に、どうすればよかったか、などと児童・生徒に考えさせる工夫をし

ているから、おとなが読んでもおもしろい。昔の硬い道徳のイメージにあるような、おしつけがましさはほとんどない。私など、ちらりと読んでイソップ童話のようだと感じた。「星野君の二塁打」も、その一例だ。原作を改変していることに、引つ掛かりがあるのだが……。

その問題の教科書が図書館にあったので、補足するために引用すると、監督は次のように説明している。

「チームの作戦を決めるのが監督であり、選手は試合でそれに絶対に従うのが、チームの規則だ」などという意味のことを前置きしてから、「ぼくは昨日、星野君にバントで岩田君を二塁へ送るよう指示を出した。これがあの時、チームで決めた作戦だった。にも関わらず、彼は勝手に打撃に出た。星野君は規則を破り、チームのまとまりを乱したのだ」「みんな、野球は、ただ勝てばいいというのではない。健康な体をつくると同時に、団体競技として、チームワークの心を養うためのものなのだ」と論じている。

「チームで決めた作戦だった」とも言っているが、実際のところ、そのバントは、監督自身が独断で決めた作戦だろう。監督もチームの一員だから、チームで決めた作戦だったことは、間違いではないけれど、チー

ム全員で決めたかのようなニュアンスを持たせている。「チームのまとまりを乱した」という主張も首を傾げたい。試合に勝って、むしろチームみんな喜び合ったのだから、結果オーライの話なのだ。それで、北町チームが待望の選手権大会に出場できることになったのだから、星野君は、むしろチームのまとまりを強固にしたとも言える。

チームのまとまりとは、監督がチームを統制することを意味しているのだろう。つまり、星野君がバントをしなかったことは統制がほころびたことなのだ。

その監督は、チームワーク云々とへ、理屈をこねているが、「監督の指示に従うのが規則なのだ」と言いたいわけで、「野球に勝つより、監督のメンツを立てろ」と言っているわけだ。

監督の指示に対して選手たちは異を唱えないこともチームの規則とされるのでは、えらく封建的な規則だ。監督に絶対的権力を持たせている。

星野君は、チームの足を引っ張ったわけでもない。むしろ、チームをよい方向に引っ張った、一番の貢献者であり、今後の試合においてもチームの戦力として欠くことは惜しい選手なのだ。しかし、監督は、指示に反して星野君が自身の判断で、強打に出たことが、

とにかく気にいらぬ。自分の指示を無視したものがヒーローとしてもはやされているのだから、余計に気に入らない。そんな監督のむかむかした気持ちは、記述されていないが、推し量れることだ。監督のメンツがつぶされたのだ。

感情的なわだかまりがあつたためだろう、翌日になつて、チーム全員の前で星野君をつるし上げた。出場禁止という厳しい処分を言い渡した。

「ざまあみろ、オレに逆らつたからだ」と心の中で侮蔑したりして。

教科書では、「星野だけが、じつとうつむいたまま、石のように動かなかつた」という文章でしめくくられている。おまけに、ひざ小僧を抱えた少年の挿絵まで入っている。ヒーローから規則違反の罪人に突き落とされたのだから、ショックは大きい。監督の指示に絶対に従わなければならないという「鉄の掟」を破つた報いになっている。星野君としては「バントの構えをしたら、相手のピッチャーがど真ん中に投げてきたので、とっさに打つた。チャンスだと思つた。臨機応変に行動した」などと言い訳したいところだが、監督は弁解も言分もさせなかつた。

これでは「星野君、かわいそう」という声がかかる

のも、無理はない。星野君は野球部を辞めることを考へるかもしれない。結果的に、星野君の判断は監督より正しかつた。「こんなボンクラ監督のもとで、野球ができるか！」と怒つてもいい。野球は、判断力を養うスポーツでもあるはずだ。積極的に動くことで、「勝ち」を引き寄せることが多い。

この教科書は、星野君が二塁打を放つて、チームの勝利に貢献したのに、その彼が出場禁止を食らつたのはなぜか、と児童に考えさせている。多くの児童たちが「少年野球ではどんなときでも監督の指示に逆らつてはいけぬのね」ということを結論づけるだろう。しかし、それでは、さみしすぎる。この教科書は、「上位者の指示に従つてプレーすりやいのね」というような、自分で何も考えない、指示待ち人間を育てようとしてゐるようだ。

追伸——次の日、監督が星野君に近づいて行き「星野君、あの時、ぼくはバントのサインを出さなかつたよね？」と、ニヤつきながら言つたら、星野君もすべてを悟り「すみません」と謝り、すべてが丸く収まつたかもしれない、と私は別のストーリーを考へた。



⑧ 中国の台湾包囲網

【毎日新聞朝刊 2018/2/10 社会

台湾地震で、日本のお見舞いで「総統」肩書き使  
用に中国が反応、批判。中国では「台湾当局の指  
導者」と呼んでいる。】

【毎日新聞夕刊 2018/5/1 総合

ドミニカが中国と国交樹立を受け、台湾がドミニ  
カと断交を発表。これで台湾と国交がある国は1  
9カ国となる。】

【毎日新聞朝刊 2018/5/27 国際

中国が台湾の表記を「中国台湾」にするよう航空会  
社に要求。今年に入り、ホームページ上で台湾を国  
家扱いしたとして外資系企業が謝罪に追い込まれ  
る事態が相次いでいる。】

【毎日新聞朝刊 2018/5/28 国際

ブルキナファソが26日、中国と国交を樹立した。  
24日には台湾と断交している。中国は独立志向の  
台湾の民進党・蔡政権を国際的に孤立させる外交攻  
勢を強化している。】

【毎日新聞夕刊 2018/6/6 総合

米政府が台湾海峡へ米艦を派遣する検討。軍事的圧

力を強めている中国をけん制する。】

【毎日新聞朝刊 2018/6/8 国際

台湾が実施する演習も中国軍の上陸作戦を想定す  
る。】

【毎日新聞朝刊 2018/6/9 国際

台湾はアフリカ唯一の外交国スワジランドの国  
王を歓待した。つなぎ留めに懸命になっている。  
中国は台湾に対する外交攻勢を強め、2016年5  
月の蔡氏の就任以降、台湾を4カ国との断交に追い  
やった。】

【毎日新聞朝刊 2018/6/18 国際

台湾独立派が決起集会を開く。中国に危機感をもち、  
(独立するか否かの) 住民投票の実現を訴える。】

【毎日新聞朝刊 2018/8/14 国際

台湾、蔡総統は近年、米国との連携強化を図ってお  
り、中国は神経をとがらせている。中国の外交攻勢  
が強まり、台湾の外交関係国は約2年で22から1  
8まで減少、蔡氏はつなぎ留めに懸命だ。】

【毎日新聞朝刊 2018/8/22 総合、国際

エルサルバドルが台湾と断交し、中国と国交を樹  
立した。

中国政府は、蔡総統が訪米したことの「対抗措置」

としてエルサルバドルと国交を樹立したとする。】

【毎日新聞朝刊 2018/9/14 国際

中国政府は、本土に半年以上住むなどの条件を満たす台湾住民（仕事や学業などのために滞在する人たち）に居住権を付与する制度を9月1日から始めた。公共サービスが「中国国民と同等待遇」で受けられる。台湾側は、中台統一に向けて台湾住民を取り込む戦略の一環とみて警戒している。】

【毎日新聞朝刊 2018/9/17 国際

来夏予定だった東アジア・ユース大会が中止になった。台湾開催に中国が圧力。】

【毎日新聞朝刊 2018/9/23 一面、国際

パチカン、中国と和解。司教の任命権を容認。パチカンは欧州で唯一、台湾と外交関係を持つ。】

【毎日新聞朝刊 2018/9/27 国際

ローマ法王「（中国の司教を）任命するのは法王だ」 中国側に司教の任命についての主導権を渡したのではなく、あくまで最終的な決定は法王が行うとの認識を示した。】

台湾政府のトップリーダーの肩書きを、日本で一般に「総統」と言っているが、中国では「台湾当局の指

導者」と呼んでいるという。日本政府にも「その正式な表記を使え」と言ってきた。なかなかうるさいことを言ってきたのだ。日本政府はそれに従わざるを得ない。少なくとも外交上の公的文書には「総統」を使うことはできない。そのうち、「日本のマスコミなどにもその表記を使うように徹底させる」と言い出すのだろう。

表記にこだわっているもう一つは、国号だ。中国は台湾を国と思っていないから、厳密に言えば、国号ではなく、「地域名」だ。台湾を「台湾」と呼ばず、「中国台湾」と呼ぶように仕向けている。今般、航空会社にそれを徹底させた。そうしないと、乗り入れ禁止の措置をとられてしまう。

中国は、台湾と外交のある国に対し、外交攻勢をかけてきている。台湾と断交し、中国と外交関係を結ぶように圧力をかけている。あるいは、経済力を背景に、経済的支援や融資をちらつかせる。それらの国々は台湾と中国の両方に外交を持てばいいとも思うが、そうはいかないようだ。その外交は二者択一になっている。「一つの中国」という中国の主張がますます強くなってきている。「中国と台湾は別々の国ではなく、一つだ」という主張だ。そして、「台湾を絶対に独立させ

ない」という強いメッセージを出している。そして台湾がアメリカにさらに接近でもしたら、対抗措置をとるだろう。中国は台湾を囲い込みたい。台湾を支配することに意欲まんまんだ。

中国は、長年いがみ合っていたバチカンとの関係を修復した。それまで、中国での司教の任命権をどうするか、というささいなことでもめていた。中国政府には宗教を管理統制したい（人心を掌握したい）という思惑がある。宗教が政治に影響力を持つことを嫌っている。

キリスト教に関しても、国内カトリックの教区を統括する司教の人事に中国政府が関わりたい。しかし、司教を任命するのは昔からバチカンにいる法王と決まっているのだから、バチカンとしては譲るわけには行かない。この9月に両者が合意に至ったことは、どうやら、中国政府が推奨する人物をバチカンが任命するという形にしたようだ。バチカンの顔を立て、「最終的な任命権」をバチカンに譲った。譲歩した形だが、互いの利益を考えてのことだろう。

バチカンは欧州で唯一台湾との外交を持っている国だから、中国政府はこれも切り崩すねらいがあると思われる。まずは司教任命問題を解決したことになる。

これは台湾包囲網を狭める一環と考えられるのだ。

中国は台湾を固<sup>く</sup>有<sup>り</sup>の領土<sup>と</sup>思い込んでいるから、別々の国にさせるわけにはいかない。故宮博物院の宝物は北京から持ち逃げされたものという「恨み」もあることだろう。実質的に自主的な政府を持つ台湾が名実ともに独立したいと望んでも、中国政府にはそうはさせないという強い意志がある。台湾が独立する動きをするなら、強引に押さえ込もうとする。独立を主張するような指導者が現れれば、ただでは置かない。中国にとって要注意人物に、李登輝氏がいる。老齡ながら、長年、目を付けられている。

台湾の前政権は親中国的だったため、規制などを緩和したが、今の蔡政権には厳しい態度をとっている。ほとんど、いやがらせに近いことをやっている。弱者をいじめているようでもある。中国は台湾を付けねらうストーカー的存在になっている。

台湾人の多くは独立を望んでいるだろう。住民投票したら、明らかだろうが、中国政府の猛烈な反発があるだろうから、それは難しそうだ。中国政府は武力行使も辞さず、阻止するだろう。自分たち島民はこの国にも支配されたくないというのが本音<sup>ほんね</sup>だろう。中国

政府の嫌がらせ的政策の数々、強引なやり方に、台湾の人々の心はますます中国から離れていきそうだ、と私はみる。

しかし相反する考えだが、このまま中国の圧力が増してくるならば、台湾人の大半が反発しつつも、いつしか取り込まれる可能性もある。台湾が中国政府にひれ伏して、恭順の姿勢を見せれば、意地悪されなくてすむから、得策だとする考えだ。打算的な選択になる。経済的にじたばたしているランプ政権のアメリカなどよりも、力をつけている中国に近づいたほうが何かと便利だという計算が台湾の財界人たちに働くかもしれない。物流や人々の交流などで、距離が近い点がいい。両者にはまた、民族的にも、歴史や言葉などの文化的にも近いところがある。中国政府は、民族が異なるうと何だろうと、支配する分にはぜんぜんかまわないのだろうけど……。

### ⑨ ロヒンギヤ迫害の主犯

【毎日新聞朝刊 2018/4/25 国際

ミャンマー、ロヒンギヤ10人が治安部隊員とみられる人物に殺害された事件を調べていた記者が逮

捕された事件で、警官が「わな」だったと証言。】

【毎日新聞朝刊 2018/7/10 国際

ミャンマーで記者2名をロヒンギヤに関する重要資料を警察から不法入手したとして逮捕された問題で、裁判所が国家機密法違反の疑いで、2人を起訴すると判決。】

【毎日新聞朝刊 2018/9/4 総合

ミャンマー、ロヒンギヤ取材記者を国家機密法違反で実刑判決。】

【毎日新聞夕刊 2018/9/4 総合

ミャンマー、「ロヒンギヤが住民を殺害した」のは間違いと、軍が異例の謝罪をした。（その根拠として）1971年のバングラデシュでの別の事件の写真を引用していた。】

【毎日新聞朝刊 2018/9/9 国際

ロヒンギヤ迫害（70万人がバングラデシュへ）、国際刑事裁は「管轄権を有する」とし、捜査に道を開く。】

【毎日新聞朝刊 2018/9/19 国際

国連がロヒンギヤ迫害の報告書をまとめた。ミャンマー軍が「主犯」だったとし、組織的な殺害や性的暴力など深刻な人道犯罪を確認した。村落の40%

以上が破壊された。(軍の一連の行動は)当局者に「除去作戦」と呼ばれていた。」

【毎日新聞朝刊 2018/10/8 国際

窮地のスーチー氏が訪日した。日本はミャンマー支援の姿勢を崩していない。

(ロヒンギャ問題で)欧米から厳しい批判にさらされているスーチー氏は、9月の国連総会を2年連続で欠席した。】

ひどい迫害だったことが容易に想像できる——2017年9月、一部のロヒンギャが反抗的行動に出たのをきっかけとし、軍が主導して大々的な「除去作戦」を推し進めた。兵士たちはロヒンギャの村々を襲撃した。家屋を破壊し、火を放つ。村人には武器を突きつけ、立ち退かす。女子には乱暴狼藉を働く。村人が抗議の声を上げようものなら、弾丸を撃ち込んで黙らせる——

家を追われた70万のロヒンギャは隣国のバングラデシュに逃げ込んだ。逃げ込めなかった者の生死は不明だ。そのロヒンギャたちがミャンマーの地に帰還するのは、1年後の今日でも絶望的だ。

ロヒンギャたちは完全に差別された人々だ。ミャン

マーでは、彼らは異教徒(異端)であるし、非国民だから。

国連の報告書で、「ロヒンギャ迫害の主犯はミャンマー軍だ」との結論を出している。ミャンマー軍の後盾はミャンマー政府だから、協力をまったく得られず、困難な調査だったと思われる。

・ロヒンギャ取材の記者の逮捕

ロヒンギャに関する重要資料を警察から不法入手したことで逮捕とは、これいかに？

警察が重要資料を記者に渡したのなら、警察側の行為に問題があったわけで、機密漏えいに当る。国家機密法違反となるのは、警察側の関係者だろう。

警察は、おとり捜査のような手法で、ロヒンギャ迫害を取材する記者二人を捕まえたわけだ。警察にそんな指示ができるのは、明らかにミャンマー政府だ。政府としては、ロヒンギャ迫害が都合な真実だから、隠ぺいしたいのだ。記者の逮捕は、見せしめだろう。「取材するな!」というメッセージになる。政府組織を挙げて、隠ぺいに努めている様子がうかがえる。

・ミャンマー軍による捏造例

ミャンマー軍は「ロヒンギャが住民を虐殺した」とを理由にあげて広報したが、その証拠となる写真が、

数十年前に別の事件で撮られた写真の引用だったことがわかり、捏造がばれた。デマを流す意図だったことがわかる。(昔の日本での大本営発表に似ている) ばれてしまつては、ミャンマー軍もこれには謝罪するしかない。

・スーチー氏の立ち位置

ミャンマーの実質的な最高責任者アウンサン・スーチー氏は、インタビューなどでは渋い顔をしながら、「国際的な非難は不当だ。ミャンマー国内事情を理解していない」などといい、反省も謝罪もしない。ロヒンギャ迫害では、彼女に責任の一端があることは間違いない。迫害を見て見ぬふりをし、止めもしなかった。軍や警察の行動を容認していたことになる。軍の仕業だとはつきりした場合でも「軍が勝手にやったこと」として、自分には関係がないとするのだろう。

スーチー氏は外務大臣を兼ねており、その職務として国連総会に出席することは重要なはずなのに、今年も欠席した。ロヒンギャ迫害で矢面に立たされるから、出席を避けているわけだ。へたをすれば、経済制裁決議を受けてしまう可能性がある。

しかし、日本には来た。迫害に目をつぶるかのよう  
に日本政府は歓待し、自国に経済的な援助もしてくれ

るから、彼女はのこのこと来日したのだろう。

⑩ ロシアからの亡命スパイは消される

【毎日新聞朝刊 2018/3/17 余録】

英国に亡命したリトビネンコはポロニウムで、ブルガリア人作家は毒の金属性粒を仕込んだ雨傘で指された。スクリパリ元大佐と娘さんは、ノビチヨクという神経剤だそうだ。】

【毎日新聞朝刊 2018/3/19 国際】

イギリスが元露スパイ襲撃事件に使われた神経剤を調査している。OPCW (化学兵器禁止機関) がロシアは昨年9月に化学兵器全廃を発表したが、ジョンソン英外相は「過去10年間にロシアが暗殺目的で神経剤を研究、貯蔵していた」とする。】

【毎日新聞朝刊 2018/8/9 総合】

米、英の神経剤事件でロシアの関与を断定し、経済制裁をする。】

【毎日新聞夕刊 2018/9/19 総合】

反プーチンバンドメンバーが「毒を盛られた疑いがある」と、入院先のドイツの病院が見解を述べた。】

ロシア政府が関係するとされる暗殺事件が後を絶たない。その暗殺の対象となっているのが、プーチンに反対する勢力の野党党首だったり、政権に批判的な新聞記者だったり、反プーチンを叫び、氣勢を上げるロッキンバンドのメンバーだったりするのだから、暗殺の首謀者は推して計るべしであり、プーチン大統領その人だ。

イギリスに亡命した元スパイに対して、一般人が絶対手に入れることができないような、つまりロシア政府の「特産品」を用いて暗殺事件を起こしたから、メイ首相などは怒り狂っている。私が代弁すると、ヒステリックに「イギリス国内で勝手なマネをしてくれるわね、これで何度目だというの！」

ノビチョクの神経剤事件でおせっかいなアメリカは、ロシアに対して経済制裁に乗り出した。イギリスやアメリカ、ドイツなどの外交問題に発展しよう、プーチンは意に介さないようだ。うるさいハエやカが飛んでいるぐらいの感覚なんだろう。

こんなことを書くと、私も「口封じ」されてしまうかもしれないが、日本でそんなことはできないだろうと高をくくっている。

実行者（あるいは実行班）は、わざと自分たちの仕業であることの痕跡を残すようなことをしている。すぐにロシア工作員が疑われるような稚拙なやり方だ。被害者は不審な死を遂げている。すぐに当局に怪しまれ、徹底的に捜査されるに決まっている。当局に怪しまれないように、自然な死に見せかける方法はいくらでもあるはずなのに……。たとえば、心臓病に見せかけるとか、事故死か、自殺に偽造するとか、拉致して行方不明にしてしまうとか……。

犯行の方法や実行人物が、その国の警察に特定されてしまっている。わざとらしいのだ。それでは「首謀者はプーチンである」ことが、見え見えになる。

暗躍する諜報部員は、昔から本国に忠誠を示しながら、相手国にも情報を漏らし、両方から報酬を得ることがある。二重スパイと呼ばれている者たちだ。そんなスパイが裏切り者であり、自国のためにならない。「ロシアに忠誠を尽くせ。裏切ったら、必ず殺す。トップの命令で何としてでも殺す。組織をあげて実行する」という強いメッセージが、元スパイなどの暗殺だろ。暗殺を命じたものが、プーチンあるいは長官レベルの高官であることを暗に知らしめることが、忠実な諜報員を育成するために必要と思われるわけだ。

「裏切り者」に対するプーチンの執念は深い。どこの国に亡命しようと、暗殺を試みる。裏切りを許さないために必要なことなんだろう。実行犯はミッシェンを終えたら、すぐにロシアに帰ればいい。彼らは功績によりロシア諜報部で二階級特進だろう。

⑪ 見えないところで手抜きしたレオパレス21

【毎日新聞朝刊 2018/4/28 社会】

レオパレス21は1990年代に全国で発売した木造2階建てアパートの一部で建築確認の図面と実際の施行内容が異なっていたと発表した。賃貸アパートなどに使われている915棟を調査する。図面ではアパートの住戸間を隔てる壁が延焼を防ぐために屋根裏まで設置されていることになっているが、実際にはない可能性がある。レオパレス21は作業時のミスと説明している。レオパレス21は対象のアパートのうち、自社が管理する物件95棟をすでに調査し、86棟で同様の間違いがあった。安全性には問題ないという。】

木造二階建ての集合住宅は、典型的なアパートの形

だ。アパート経営するのにもっとも手ごろな物件だろう。市街地に広めの土地を持っているなら、空き地にしておくより、賃貸アパート経営をすれば（あるいは駐車場）、月々の収入になるといふものだ。レオパレス21に頼めば、そんな標準的アパート（いわば既製品）を建設してもらえるのだから、オーナーとしては細かな設計に苦慮しなくてよい。

見直しの対象となる物件は、「ゴールドネイル・シリーズ」、「ニューゴールドネイル・シリーズ」で、915棟あるという。集合住宅に関して、類焼・延焼を防ぐため、あるいは遅らせるために、各戸の間には、耐火性のある部材で壁を作らなければならないが、屋根裏部分においては、それがわかった。ある物件では粗悪なベニア板で代用していたものも見つかった。設計図面上にちゃんと示されているのに、それがない。専門用語では、それを「界壁」という。それがあるかないかは、屋根裏をのぞいてみればわかるのだが……。屋根裏に通じるような穴は、作られていないから、天井の一部を切り欠いて穴を作らなければ、オーナーなど一般の人は確認のしようがないようになっていた。屋根裏に通じる天井穴を塞いでいたのは、ばれないようにするため、と考えられる。



界壁がないことは、建築基準法にもろに違反する。これでは火事の炎は、上に立ち昇る。天井が燃えると、これでは屋根裏を通じて一気に隣の部屋に燃え移ってしまうだろう。通常時において、ネズミのような小動物が天井裏を通じて出入り自由となる。界壁は、遮音性を保つ上でも、耐震性を高める上でも必要な設備だろう。

記事にあるように、調査した自社管理物件の95棟のうち86棟で間違いがあったというから、かなりの高率だ。「アパートの一部」どころか、大半の物件で間違いがありうることになる。単に設計図と実物が合わないだけの問題ではなく、図面と異なつて界壁がないことは、手抜き工事が行われたと同義になることだ。もしも、差し引き9棟の自社管理物件が、いわゆるモデルハウスであり、実際に人が居住していないものと仮定すると、それを見て買ったオーナーたちはさうとうに怒るだろう。

火災に対する備えを欠いているわけで、危険性が高い。業者のレオパレス21は「安全性に問題はない」と言っているが、とんでもない。気休めにも、そんなこととは言えない。それは「火災がなければ」という条件付きでしか言えないことだ。しかし、「火災が発生し

ない」という条件は、この世では成立しない。

基準通りか否かは、設計の段階と工事の段階で、建築士がチェックすることになっているから、通常、そんな違反は見過ぎされない。しかし、レオパレス21の場合、関係する物件の多くで見過ぎされたことになる。担当した建築士の責任も問われる事態になっている。レオパレス21と建築士がグルになって、手抜き工事了た物件を増殖させていたと考えられる。建築確認用の図面と実際の施行図面を使い分けていたかという疑いが生じる。幹部の指示がなければ、できないことだろう。彼らは、オーナーに物件を売り渡してしまえば、あとは野となれ山となれ、火災の被害がいくら大きくなるうと、住民が何人焼け死のうと、知ったことではない人たちのだ。

界壁を作らなかつた理由は、もちろん、建設費用を安く上げるためだ。コストを下げた分、彼らの儲けになる。この業者は儲け第一主義なのだろう。以前テレビなどで大々的な宣伝を行つてことが私には思い出される。業績が大きく伸びた時期だろう。

また、今年の4月にレオパレス21は最近それを知つたかのような顔をして、全915棟を見直すと発表した。天井裏に隔壁がない物件については、数年前に

別件で提訴されたときに偶然発覚していたし、内部の事情を知る人は「『ゴールドネイル・シリーズ』の発売当初の20年前から幹部連中が把握していた案件だ」とも言うのだ。知っていて放置したというのでは、悪質度高い。今般、とうとう世間に広くばれてしまったから、あわてて対応した格好になっている。1000棟近くの数を建設すれば、いくら外からは見えなるところだといっても、改装や電気工事などのときに専門的な人が入る機会があるから、ばれるに決まっている。

⑫ かぼちやの馬車・投資と融資の幻想

【毎日新聞夕刊 2018/4/10 総合・経済】

かぼちやの馬車が破綻。首都圏で女性専用シェアハウス「かぼちやの馬車」を運営する不動産会社スマートデイズが民事再生法を申請した。入居率の低迷で、資金繰りが悪化した。創業から5年余りで1000棟近くの物件を建てた。その所有者は約700人で、会社員が多く地方在住者も含む。それぞれ1億円以上を主にスルガ銀行から借りていた。スマートデイズはシェアハウスの物件を1億円以上で

販売し、その物件を所有者から借り上げて管理し、居住者から家賃を集めて毎月保証した賃借料を所有者に支払う事業を手がけていた。だが、入居率は40%前後で収益率に乏しかった。】

【毎日新聞朝刊 2018/4/13 総合・経済】

「かぼちやの馬車」の運営が頓挫したスマートデイズ、大半の所有者に資金を融資していたスルガ銀行。】

【毎日新聞朝刊 2018/4/14 経済】

スルガ銀行立ち入り、スマートデイズの投資トラブル、ずさん融資が被害拡大。家賃保証が滞り、返済が困難に。】

【毎日新聞朝刊 2018/4/18 社会】

かぼちやの馬車（の債権）所有者が自殺したと弁護士団が明らかにした。「多額の借金に悩んだことによる自殺だ」と説明。】

【毎日新聞朝刊 2018/4/21 社会】

シェアハウス「かぼちやの馬車」投資トラブル、土地や資金がなくてもシェアハウスのオーナーになります——。そんな触れ込みで会社勤めの約700人から多額の投資を募っていた不動産会社「スマートデイズ」が今月倒産した。】

【毎日新聞朝刊 2018/5/16 経済、社会】

スルガ銀行、融資ずさん、シェアハウスの不正に積極関与か、相当数の行員が偽造を認識していた。】

【毎日新聞夕刊 2018/5/22 一面】

シェアハウスはなぜ急増？ 10年前には全国で1000棟にも満たなかった物件は、今や4500棟を数える。居住者の多くは20〜30代。部屋は手狭でシャワーやキッチンが強要。家賃が安い、初期費用が安いなど経済面重視が多数だった。】

【毎日新聞朝刊 2018/5/23 総合・社会】

シェアハウスオーナー側がスルガ銀行員の融資のための書類改ざんの告発状を警視庁に提出した。弁護側は「運営会社スマートデイズとスルガ行員が結託した詐欺的なビジネスモデルで1000人近い被害者を出している】

【毎日新聞朝刊 2018/5/24 経済】

シェアハウス運営の不動産会社ゴールデンゲインが東京地裁から破産手続き開始決定を受けた。2社目の破綻。

ゴールデンゲインが事業を展開する物件数は少なくとも120棟あるとされる。だが入居率低迷などから資金繰りに行き詰まり、17年12月ごろ所有者への賃貸料の支払いを停止した。破産手続きは債

権者が申し立てていた。100人程度の所有者の大半が駿河銀行から購入資金の融資を受けた。いずれも1億円超の借金を抱えて返済に窮している。】

【毎日新聞朝刊 2018/9/8 一面、総合】

スルガ銀行不正、第三者委員会報告「経営陣の責任」審査を通すために物件所有者の預金通帳残高や家賃収入の見通しなどを改ざんする行為がまん延していたと指摘。】

【毎日新聞朝刊 2018/8/10 総合・経済】

スルガ銀、不良債権4倍、シェアハウス融資で1356億円。】

【毎日新聞朝刊 2018/9/14 総合・経済】

スマートデイズが販売していた物件。日銀は銀行融資が伸びていることを「大規模緩和の成果」と自賛する。大半を不動産が占めることに問題してこなかった。】

#### ・シェアハウス投資

これは、シェアハウスを投資先にした詐欺的不動産取引だ。シェアハウスといっても、アパート経営と基本的に同じだ。銀行から金を借りて、賃貸物件を不動産会社から購入し、オーナーとなる。その物件の管理

をその不動産会社に任せたまま、オーナーは毎月の家賃収入を得る。かぼちゃの馬車のシェアハウスの場合、高額な家賃収入が定額で得られる仕組みだった。その仕組みには落とし穴がついていた。

アパート経営は、一見楽な仕事に見えていて、なかなか大変なところがある。大家として店子の面倒をみる形になる。空室が出れば、不動産仲介業者に依頼して、店子を募集し、契約手続きなどをしてもらう。その手数料がけっこう高い。家賃を徴収する確認など手間がかかる。しかし、このシェアハウスの場合、面倒なことは一切運営会社がやってくれる。しかも、毎月、家賃収入の定額を自分の口座に振り込んでくれる。シェアハウスを購入する資金は、銀行がほとんど融資してくれるというのだから、うれしい。

10室もあるシェアハウスだから、それなりに大きい。広い敷地も必要だ。一般の住宅を購入する資金の数が倍になるが、銀行がほいほい貸してくれる。いまだきの銀行ローンの金利はたいしたことないし、家賃収入から出せばいいから、手元に十分な金が残ることになる。シェアハウスのオーナーになれて、家賃収入でらくらく暮らせる。30年続けることを運営会社と契約する。

アパートは、立地条件によって、店子の入居率が違ってくるが、定額ならば、そんな当たり外れもないから、心強い。不動産会社スマートデイズは、街の一等地に店を構え、景気よく商売繁盛しているようだから、倒産の恐れもなさそうだと、と思う。

どこに、どんなシェアハウスを建設するかは、実績と経験のある不動産会社スマートデイズが、土地の購入から建設の確認まで取り仕切ってくれるから、オーナーがあれこれ考えなくていい。もう決断するしかない！

ただし、銀行の融資決定が条件になる。銀行融資の審査が通って初めて実質的なゴーサインがでる。金持ちでない人にとって、それが一番の難関だろう。でも、銀行自身もできるだけ多く融資したい。融資の高が営業マンのノルマに関わることだし、銀行の部門や支店の営業成績につながる。

一般住宅の数倍もするような不動産物件の購入では、年収や自己資金などが審査対象になる。組織的ごまかしがあつて、スマートデイズの物件が多く通された。オーナー希望者が源泉徴収書や通帳のコピーを提出するが、スマートデイズ側の関係者とスルガ銀行の行員が共謀して、コピーに印字された数値を改ざんする手

口が明らかになってきている。しかし、融資したあとで返済されないとすると、銀行の不良債権となる。現に、スルガ銀行は、シェアハウス融資で1356億円の不良債権を抱えることになった。その金は、人々の預金や日本銀行からの融資が原資になっているものだろう。投資家たちはシェアハウスの物件をスマートデイズに注文し、その完成時に代金として、銀行からの資金で支払う。これによって、夢のようなシェアハウスのオーナーになれたわけだ。

その建築価格は市場よりあきらかに高かったという指摘がある。スマートデイズはオーナーたちに、ほとんど「言い値」で、高額物件を売りつけたわけだから、大きな販売利益を得る。スマートデイズは仲介する形で建設業者に支払う分を経費として計上するだけでなく、リベートとして建設業者からキックバックされていたこともわかった。

その利益によってスマートデイズの営業成績は好調だった（絶好調！）はずだが、1000棟ほどオーナーに売り付けると、まもなくスマートデイズは倒産する。それは、オーナーに30年間定額賃借料を支払うという約束をほごにするものだった。倒産は、オーナーに支払うべき30年間の定額賃借料を「踏み倒す」

方便になっている。スマートデイズにとって、あまりにも都合のいい倒産だった。

・「かぼちやの馬車」の場合

具体的な手口を示そう。不動産会社スマートデイズが運営するシェアハウス「かぼちやの馬車」の要点を書くと、以下になる。

物件・女性専用シェアハウス

入居者は部屋を5万円で借りられる。

専有する部屋は4畳の広さ7㎡、

1棟当たり10部屋

1棟の価格、約1億円

かぼちやの馬車がオーナーから借り上げ、管理する。借り上げの賃借料は、完全定額制で30年間保証される。確定賃料8%（手数料を差し引く）

\*出資すれば、シェアハウスのオーナーになれることを大々的な宣伝することで、一般人を信用させる。

\*シェアハウスのオーナーになれば、スマートデイズにすべての管理を任せることで、オーナーは何もせずに賃料が得られるとする。スマートデイズは提示するのは、高額な賃料だ。その高額な賃料を30年間続けるとスマートデイズは豪語する。

\*自己資金がない顧客には、銀行借入れを勧める。  
\*融資審査の甘いスルガ銀行を推奨する。低金利の時  
代だから、1億円借りても、その利子は高額な賃料  
から支払えるとする。

確定賃料8%とはオーナーが1棟を購入した価格  
8%だ。いまだき8%はかなり魅力的なのだ。単純に  
収支計算すると、1億円を銀行ローンで借りれば、そ  
の利子1%を払ったとしても、7%が毎年の収入にな  
る。ただし、1億円を30年で返済するのに、350  
万円ほど毎年払う必要がある。毎年、不動産税を支払  
わなくてはならない。これが意外と高かったりするし、  
少なくとも共有部分の火災保険料も必要だろうから、  
よく考えると(詳細に計算すると)、それほど儲かる話  
でもない。30年もすれば、シェアハウスの資産価値  
はゼロになるかもしれないから、もう何も残らなかつ  
たりする。

一見おいしい不動産投資だから、約700人の、比  
較的年収の多い人が興味を持ち、この話に乗ってしま  
った。彼らは、投資家と言わなければならない、  
大半は一般人と言っている。(投資の専門家はこんな  
物件には手を出さない。) 彼らは銀行に多額の金を

借りて投資した。当初はうたい文句どおりの高額な「家  
賃収入」が得られるものだから、さらに投資を増やし  
ていった人も多い。

そして多くのオーナーは数年もたたないうちに、確  
定賃料が入らなくなった。スマートデイズが倒産した  
からだ。オーナーには、銀行への返済義務が残ること  
になった。それと、限定的な人しか入居しない、しょ  
うもないシェアハウスが残る。かぼちやの馬車の場合、  
オーナーたちが多額の負債をかかえ、自殺者を出すと  
いう悲劇を引き起こしている。

そもそも、店子にとつて賃料が安いことがとりえの  
シェアハウスで、オーナーが多額の賃料収入を期待す  
ることが無理だろう。

この種の不動産会社は、スマートデイズだけでない。  
不動産会社ゴールドディングインもおなじスキームで倒産  
した。